

# 令和6年度岡山県立玉島商業高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日 時：令和6年11月6日（水）14:00～16:00

場 所：会議室（管理棟2階）

出席者：9名（委員11名中）

## 1 開 会

### （1）会長挨拶

今年度の取組紹介

- ・玉島みなと朝市、グッズ製作、山陽学園大学との取組、岡山県生徒商研優秀賞（2位）、中国五県生徒商研（2位）、空き家不動産活用コンテスト最優秀賞（1位）

### （2）学校長挨拶

## 2 授業参観

### （1）人権教育LHR参観

## 3 具体的な学校経営目標・計画中間まとめについて

## 4 中間評価について

別紙 R06 玉島商業地域連携中間報告

- ・地域との連携（玉島みなと朝市での商品販売、お客様へのアンケート実施。アンケート回答から顧客ニーズの把握、店舗経営・接客マナーの改善）
- ・公民館との連携（高校生によるスマホ教室、高校生と学ぶ防災教室の実施）
- ・中学校との連携（出前講座・マナー講座の実施10校）

R06 学校経営中間まとめ

- ・SNS（YouTube、Facebook（保護者世代）、instagram（中高生世代））を用いた広報活動
- ・中間評価A、Cの項目について説明

## 5 意見交換（第1回内容を踏まえて）

- （1）円通寺を舞台とした玉島魅力発信動画「夏の記憶と円通寺」（本校生徒プロモーション）視聴  
各委員から動画の感想

委員A

地元の風景を見て懐かしく感じ、興味深く見入った。

委員B

ドローン技術を活用した新しい視点の映像に感動し、出来栄の良さを称賛。

委員C

動画全体に優しさが感じられ、過去と現在をつなげるような表現が良かった。また、地元を大切にしている心が表れている点も良かった。

委員D

短時間で新鮮な感覚で地域を紹介していることが観光PRにも役立つと感じた。

委員E

短い時間で内容が凝縮されていると評価し、特に実際にお坊さんが登場するシーンに驚いた。

#### 委員 F

映像自体を素晴らしいと評価しつつ、具体的な使用方法について疑問を呈した。また、映像の長さやキャプションの小ささが少し気になるとも指摘。YouTubeなどで使う場合、60秒や30秒の短いスポット動画がより効果的かもしれない。また、キャプションが小さくて見づらいため、文字サイズの改善が必要。

#### 委員 G

動画を通じて玉島の素晴らしさを再認識し、ますます玉島が好きになった。この動画は、地域の魅力を伝える意味でも非常に効果的だ。座禅の「ざ」は「坐」。

### (2) 意見交換

テーマ「どのような資質・能力を持つ生徒を育てたいか？そのために学校・家庭・地域でどのようなことができるか。」

#### 委員 G

学校の教員として働いていたときには地域の重要性を実感できなかったが、今は地域で活動する中でその大切さを強く感じている。地域は子どもたちを育む大きな基盤であり、地域の良さや価値を理解することの重要性を実感している。また、自分が地域の歴史や人物（例：俳人・中塚一碧楼）をもっと知っていれば、子どもたちに教えられたのにと感じ、地域のことを知り、地域の人々を理解することが、子どもたちにとって大切だ。

#### 委員 F

玉島地域は人口減少が進む中で、地域に貢献できる人材を育成したい。特に、地元の魅力を発信し、玉島をPRできる人間を育てたい。地域に貢献するとは、物を作ったりお金を稼ぐことではなく、地元を愛し、魅力を語れる人になってほしいという思い。現在、玉島の人口は横ばいで、地域の活性化が課題。若い人たちが楽しめる町づくりが重要で、特に中学生・高校生が地元を楽しんで住み続けられるような環境が必要。また、女性の存在が町を支える重要な要素である。地域を支える女性を育て、地域を活性化することが切実な願いである。

#### 委員 E

地元に残り、生涯にわたって部活動を続けられるような生徒を育てたい。特に、高校野球などで燃え尽き症候群に陥ることが多い現状を踏まえ、部活動を卒業後も社会人になっても続けられるような活動が重要。例えば、玉島ソフトテニスクラブなど、地域のクラブに参加し、長くスポーツを楽しむことができる生徒を育てていきたい。

子どもが高校生になると、学校のことについて親に話したがいなくなるが多いますが、親としてあえて聞くようにしている。子どもの距離感を測りながら、適切なタイミングと話し方で会話を試み、子どもが話しやすい環境を作ろうと努めている。親子関係が良好であれば、自然に会話はスムーズになるものの、時には子どもが話したがいらないこともあり、その場合は慎重にアプローチするよう心がけている。

#### 委員 D

玉島商業高校の設立は、地元の要請を受け、地元企業の後継者育成や卒業生の地元就職を目的として始まった。しかし、時代とともに多くの若者が大阪や東京へ就職を希望し、多くの卒業生が地元を離れた。当時は成績優秀者に対して大手銀行からの推薦依頼もあり、学校からも優秀な人材が出て行っていました。その後、水島地域に大企業が進出し、地元での就職先が増え、卒業生も地元にとどまる傾向が見られるようになった。しかし、時が経つにつれて、地元の商店や小

規模企業が淘汰され、大企業中心の状況となったため、地元の後継者育成という設立当初の目的が果たせなくなりつつあると感じている。

また、玉島商業の卒業生の多くが関西や関東へと進出し、同窓会の支部も各地に存在した。甲子園に出場した野球部を応援する大阪支部などがあり、同窓会が地元外でも支え合っていたが、近年は地元を離れる卒業生が減り、支部活動も変化している。かつて玉島商業高校は非常に人気が高く、1クラスの定員を超えて多くの生徒が入学していた。当時は生徒数も多く、勢いがあり、野球部は甲子園に何度も出場し、陸上競技や駅伝でも全国制覇を果たした。また、テニスでも皇后杯や天皇杯を制覇した実績があった。100周年を迎えるにあたり、再びあの時代のような活気ある学校に戻ってほしいという願いがある。

#### 委員 C

これからの時代には、自分で考え行動できる主体的な生徒が求められている。デジタル化が進む中、SNS によるトラブルも多く、正しい判断力と主体性が重要。そのためには、学校や家庭、地域での協力が必要であり、特に SNS の使い方やマナー教育が重要。また、バーチャルな体験だけでなく、地域と連携した実体験を通して、子どもたちが地域に貢献する心を育て、地元の良さに気づく機会を提供することが大切。

#### 委員 B

地域の魅力や良さに気づく感性を育てることが大切。そのためには、地域の人との交流や体験を通じて、生徒が自分の住んでいる場所の良さを理解し、自分の将来について考えることが必要。特に商業高校の生徒には地元貢献する人が多く、地域の魅力を知ること、いずれ地元に戻りたいと考えたり、誇りを持って地元を支える意識が芽生えると期待している。このような活動を通じて、地域の活性化にもつながり、生徒が地域の良さに気づき誇りを持てるようになる。

#### 委員 A

玉島商業高校には地元だけでなく周辺地域からも多くの生徒が集まりますが、まずは生徒に学校を好きになり、高校生活を楽しんでほしい。そのためには、大人や地域が支え、きっかけを与えることが重要。生徒が学校を愛することで、玉島についても興味を持ち、歴史や良さを知る機会が増え、玉島を良い場所だと思えるようになる。さらに、将来は玉島の魅力を発信し、地元に残って就職や起業をする生徒が育つことを願っている。

#### 会長

求められる生徒像として「主体性を持って行動し、地域を知り語り、貢献できる人」が理想で、そのためには実体験が重要。実体験は、楽しい参加の場で自分ごととして学び、考えられるデザインが求められ、学校だけでなく全ステークホルダーの協力で生徒が楽しみながら学べる環境づくりが大切。

最終的に学校が「楽しい場所」であることが重要。そこでの体験や人との関わりが育まれることで、生徒が地域に対しても愛着や貢献意識を持てる。今後も学校や地域が協力して、楽しい学びの場を提供し、関わりを広げるための声かけを続けたい。

## 6 連絡事項・その他

次回の日程 第3回 2月頃実施の予定

## 7 閉会